



世界に希望を生み出そう

Vol. 62

No. 25

第 2 8 9 6 例会
2024年3月15日号

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2580地区

東京江東ロータリークラブ

2023~2024年度 テーマ

世界に希望を生み出そう

ロータリアンの心に火をつけよう Get the Joy of Rotary
RI会長 ゴードン R. マッキナリー 地区ガバナー 栃木 一夫

伝統と革新

~革新しながら伝統を守ろう~
クラブ会長 河西 史郎

今日の卓話

東分区5クラブ合同例会

(岡村ガバナー補佐担当クラブ)

【ホストクラブ東京東RC】

(ホテルニューオータニ)

次回例会案内

しがく総合研究所
樋口 陽之氏

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

例会報告

2/20	訂正出席率 71.42%
※前回訂正: 2/6	訂正出席率 81.81%
3/5	会員数 22名中 14名 出席率 66.66%
3/15	会員数 22名中 13名 出席率 61.53% (5クラブ合同例会)



会長・幹事報告



●3月の予定

- ・18日(月) 東京上野 RC 創立 40 周年例会 鈴木会員が参加されました。
- ・26日(火) クラブ創立記念例会【卓話】パラオ同行者 樋口陽之様(ひぐち はるゆき)
- ・26日(火) 地区チーム研修セミナー (ホテルエミシア立川) 次年度地区役員(鈴木会員・大澤会員・が参加)

●4月の予定

- ・2日(火) 休会 4月4日(木)へ移動例会
- ・4日(木) 東京ベイロータリークラブ合同夜間例会(ホテルイースト21 東京)【卓話】ロータリーの友 編集長 野崎恭子氏
- ・9日(火) 定例理事会・被選理事会・例会【卓話】たんぼぼクラブ嶋田知詠子氏

<委員会報告・その他>

【回覧】・オクソンカタログ NO.44

【配布物】週報 NO.25

次の例会は、4月4日(木) 東京ベイロータリークラブ合同例会(夜間例会)となっております。欠席される方は、事務局までお知らせください。

ニコニコボックス



お茶の水RC・土居岩生君: 何時も地区運営にご協力頂いています。有難うございます。本日は卓話楽しみにしています。

河西会長: 本日も宜しくおねがいします。

伊藤(海) 幹事: 立花さん、卓話とても楽しみにしております。

菅澤君: 地区大会で表彰頂きました。

伊藤(三) 君: 3月12日で、入会28年となります。今後共宜しくお願い致します。

鈴木君: 立花様、お話を楽しみにしています。

鯉淵君: よろしくお祈りします。

大澤君: 立花さん、本日はよろしくお祈りします!

小野君: 立花様、本日の卓話楽しみにしております。

岡本様地区大会お疲れ様でした。

大島君: 立花さん、卓話楽しみにしています。

大屋君: 立花さん、卓話楽しみにしています。

堀君: 立花様、卓話楽しみにしています。

熊川君: 本日もよろしくお祈りします。

野村君: 立花さん、本日は楽しみにしております。

合計 76,000 円
累計 1,472,000 円



2024年3月のロータリーレポート【1ドル151円】

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

- 例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL: 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日12時30分~13時30分
- 事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL: 03(5632)3777 FAX: 03(5632)3737



JMASの活動と日本の国際協力

世界に希望を生み出そう

日本地雷処理を支援する会 理事 立花尊顯



1. はじめに

ただいま、ご紹介いただいた立花です。本日は、このような機会を頂きありがとうございます。JMASは、日本地雷処理を支援する会（Japan Mine Action Service）の略称です。同会は、自衛隊時代に培った技能を退職後も国際協力に生かしたいということで、2002年に自衛官OBが設立したNPOです。

2. JMASの活動状況

JMASは、現在4カ国で活動しています。カンボジア、ラオスは地雷・不発弾処理、パラオとミクロネシアは、第2次大戦中に沈められた日本の船から弾薬や燃料を回収しています。いずれも技術指導が主体であり、実際の処理は現地の人々が行なっています。カンボジアには、ベトナム戦争や内戦で使用された地雷や不発弾が数多く残存しています。このため、今でも地雷や不発弾で亡くなり、また怪我をする人が絶えません。2022年度も44名の死傷者が発生しています。地雷には、対人地雷と対戦車地雷があります。対人地雷は、僅か数キロの圧力をかけると爆発し、人の足を吹き飛ばす程の威力があります。種類によっては数百円で作ることが出来、設置も容易です。一方、地雷の除去には膨大な労力と時間がかかります。探査する人は、まず防弾チョッキとフェースガード付きのヘルメットを装着します。そして、探知機を持ち、自分の前を箒で掃くように左右に動かして反応がないか確認をしていきます。反応が無ければ、半歩前に出て同じ動作を繰り返します。反応があれば、地雷が爆発しないように箒のような細い棒を手前から斜めに差し込んで地雷の位置を確認します。そして地雷が半分ほど出るまで土を除去し、現れた地雷を爆破して処理します。灼熱の中での作業は、肉体的にも精神的にも大変厳しいものです。パラオは、2012年から活動していますが、現在は、戦時中爆雷を積んだままマラカル湾内に沈んだ日本の徴用船から爆雷を船倉から出して海中で梱包し、海から引き上げ

て処分場まで移送した後、焼却処分する作業を実施しています。また、パラオ政府からの要請で不発弾処理も実施しています。

3. 日本の国際協力で大事にすべき事

1つめは、ひたむきに、そして日本を伝えることです。「ロータリーの友」の1月号に掲載された東京江東ロータリークラブのパラオでの活動記事を読ませていただきました。そこには「先人たちの努力のかいもあって、同国は親日国として知られるまでになりました。」「日本との友好を大切にしてくれている人たちの気持ちに伝えようと、ここで奉仕活動を続けています。」と綴られています。短い文章ですが、皆さんがパラオの人々を敬愛し良い関係を築かれ、ひたむきに奉仕活動に取り組まれていることがわかりますし、私も勇気づけられます。一生懸命な人の気持ちは短い文章でも伝わりますね。今回はパラオに掃除道具を寄附されたとのことですが、実は私たちもカンボジアの学校に掃除道具を寄附したばかりです。校庭にゴミが散乱していたのを見て、学校の補修支援の前に掃除が先だということで、掃除道具を寄附することになったわけです。やっぱり汚れは気になりますよね。また、学校の補修工事では、「いい加減なものは渡せない」という思いで、細かな箇所まで気を使いました。専門家でもない私たちにも、「ものづくり」へのこだわりがありました。掃除にしても「ものづくり」へのこだわりにしても、幼い頃から少しずつ身につけてきた日本特有の「しつけ」のようなものです。一種の伝統、文化と言っても良いかもしれません。ひたむきに取り組めば取り組むほど、自ずとそのような「しつけ」が出てきます。ロータリークラブの皆さんの活動も同じではないでしょうか。そして、大事なのは、このような振る舞いが、私たちが支援する国の人々に高く評価されているということです。「JMASの支援規模は小さいが、技術指導だけではなく道徳や倫理観についても隊員を教育してくれる大事な存在。そのような組織は他にはない。」とは、カンボジアの高官の言です。イラクでも、同じようなことを言われました。彼らの日本に対する評価は、伝統や文化に裏打ちされた支援が如何に大切かを教えてくれます。お金さえ出せば良いというものではないと思います。2つめは、私たちの支援について歴史的な役割を意識するという事です。現地の人々が豊かな生活を手に入れるためには、復旧から復興そして開発・発展へと長い行程を歩いていかなければなりません。それに比べると支援はどうしても一時的になります。自己満足に陥らないよう現地の人々の置かれた環境を把握した上で、支援の内容を考え、次のステップに繋がるような支援を心掛けていくことが大事だと思います。これで、私の話を終わります。ご静聴ありがとうございました。